

明治時代に活躍した輸出業者たち

井谷善恵

蔵春亭三保

蔵春亭久富製磁：明治 44（1911）に久富季九郎（1862-1937）によって設立された。東京高等工業学校の深海参次郎を招へいし、石炭窯を築く。有田では有田工業学校、香蘭社のものに続いて三基目の石炭窯だった。大正 15 年末に閉鎖

辻家について

辻家は、百十二代零元天皇（1663-1687）の頃より、禁裏御用の命を受け染付磁器を調達した窯元。百十八代後桃園天皇（1770-1779）の時代に「常陸大掾源朝臣愛常」を受領。明治初期まで同官職を世襲した。明治・大正期当主であった辻勝蔵（1870-1931）は、有田窯業界の中心人物として活躍した。

茂木・桃井・今成について

明治 24（1891）年 5 月 サンフランシスコ 港に到着した茂木喜太郎（茂木桃井商会社長）は、森村組より竹細工の簾（すだれ）類を買ってブルックリンで行商を始め、翌年 Asbery Park, N.J で小売り店舗を借り受け、森村組にいた新潟県人今成新一郎と共同事業を開始。その後アトランティック市にあった島村商会 Asbery に出店し（代表者高場四郎）、茂木今成商会と合同するも二年後に分離。ニューヨーク市付近にて小規模の小売店を経営。明治 29（1896）、茂木氏は今成氏と共に、アスベリー市に於いて、アメリカ人 Frank Dorsay なる競売人を招へいし、7 月に競売業を開始。日本人競売店の嚆矢となる。二年後の明治 31（1898）年、アトランティック市において年額 1500 ドルの家賃を投じて、間口 20 フィート、奥行 60 フィートの店舗を借り受け小川龍雄氏（当時太洋商工（株）取締役）を支配人として、富沢愛五郎を顧問として競売方面に活動した。その後茂木今成商会並びに島村組はついに卸貿易業に転じる。

茂木喜太郎について：慶応 2 年生まれ、栃木県足利郡毛野村出身。江州商人小林吟次郎（屋号丁吟）の店員であったが、福沢諭吉の海外発展を鼓舞するのに刺激を受け、星亨と会見し、渡米を決意、明治 22（1889）年渡米。ヴァンクーバーとシアトルに滞留し、その後サンフランシスコに入港し、現在の茂木桃井組を立ち上げる。

『紐育日本人発展史』大正 10 年 紐育日本人会発行、『在米日本人人名事典』大正 11 年日米新聞社編等から抜粋



向かって右茂木喜太郎、中央桃井達雄、左今成新一郎、『紐育日本人発展史』紐育日本人会 写真より